

町の交差点



自 JICA 国際ボランティア出発報告 (小島輝薫さん) 分の持つ技術、経験、知識を役立てたい!

南半球の太平洋上に位置し、観光地としても有名なフィジー諸島共和国に JICA 国際ボランティアスタッフとして3月22日から2年間向かう小島輝薫さん(土師三)が、その出発報告に井上町長を訪問しました。小島さんは、今まで9年間、自動車整備士として技術を磨き、経験と知識を蓄えてきました。日本車は、その技術の良さから世界各国でもてはやされている一方、発展途上国などでは壊れた時に修理する技術を持つ人がいないため、不法投棄や放置されることがあるとのこと。小島さんは、それを知って「自分にできることがあるのではないかと」思い、JICA に応募。そして、今回、フィジーで現地の自動車整備の職業訓練所で技術指導のボランティアを行うことになりました。しかし、英語が苦手なため、不安も少しはあるとのこと。それでも、「人の役に立ちたい!」という強い信念があるので、頑張れます!」と力強く今回の派遣への抱負を述べられていました。訪問を受けた井上町長は「身体に気をつけ、日本の PR と親善の懸け橋を築いて来てください。頑張ってください。」とエールを送りました。それに対し、小島さんは「また2年後、元気に帰国の報告に伺います。」と素敵な笑顔で応えていました。

▼ 握手をする井上町長(写真左)と「頑張ってきます!」と力強く決意を述べる小島さん(写真右)

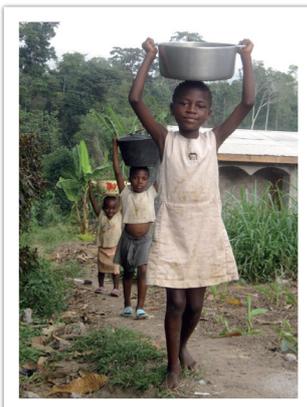


私 JICA 国際ボランティア帰国報告 (稲岡麻美さん) の人生にとって良い経験になりました

カメルーンで教師として国際ボランティア活動を行っていた稲岡麻美さんが帰国し、1月24日に帰国報告に井上町長を訪問しました。カメルーンでは、現地の教師と一緒に子どもたちに音楽や体育、図工などを指導した稲岡さん。今回の活動の感想を尋ねると、「子どもたちの笑顔や元気の良さは日本もカメルーンも同じ。ただ、同じような義務教育制度をとっていても、日本での不登校とカメルーンでの不登校は全く内容が違う。カメルーンでは、家の手伝いや兄弟の子守などで学校に行きたくてもいけない子がたくさんいる。しかし、その反面、家族や民族の絆がとても強く、子どもを放置して死なせるなどはあり得ない。発展して裕福になるのが幸せなのか、今のままが幸せなのか考えさせられました。」と話されていました。今後の事を尋ねると、この経験や体験を活かして再度日本の教育現場で教壇に立ち、子どもたちを導いていきたいと新たな目標を優しい笑顔で述べられていました。2年間、お疲れさまでした。



▲ 近所の子どもたちと一緒に



▲ 水汲みの手伝いをする兄弟



▲ 元気一杯なカメルーンの子どもたち